

令和3年度 自己点検・自己評価について（看護学科）

1. 自己点検・自己評価の概要

- 1) 全国国立病院附属看護学校副学校長・教育主事協議会中国四国支部が作成した、「自己評価書」を用いて、教職員が評価する。
- 2) 自己点検・自己評価の結果を分析することで改善点を明確化し、具体的な計画を立案して取り組む。

2. 評価内容・方法

- 1) 評価表：8領域、129の評価項目
- 2) 評価基準：4段階評定

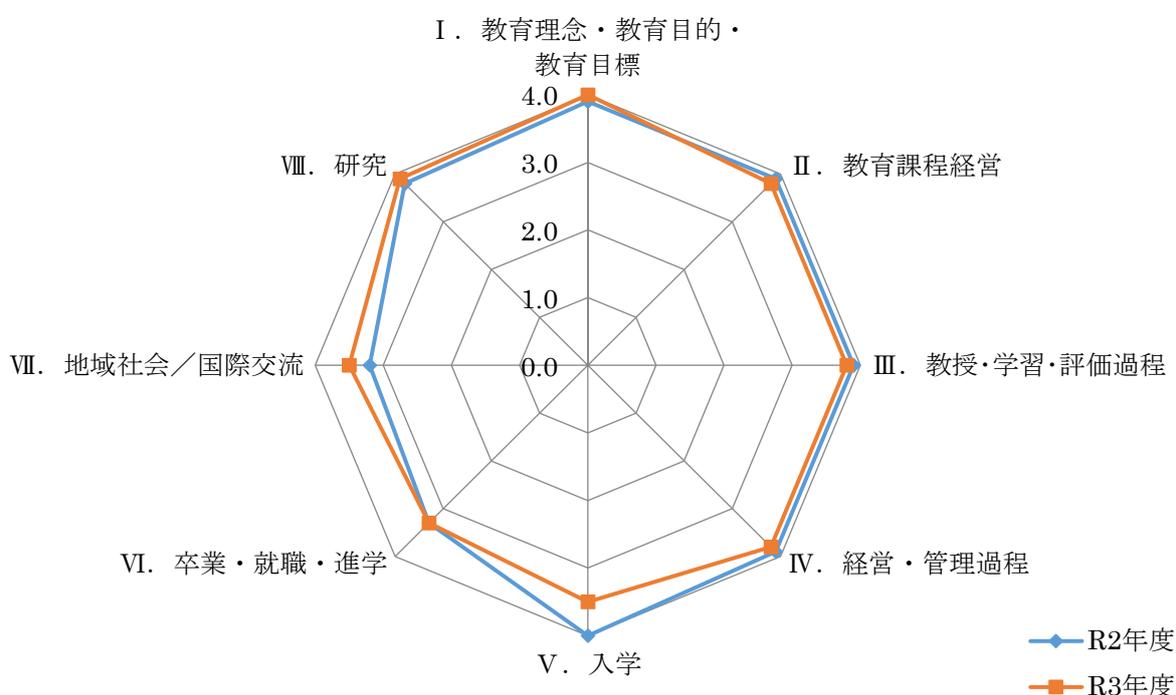
〈4. 当てはまる〉 〈3. ほぼ当てはまる〉 〈2. やや当てはまる〉 〈1. 当てはまらない〉

3. 評価結果

1) 結果

全129項目の評価は、4点が92項目、3～3.9点が36項目、2～2.9点が1項目、1点が0項目であり、全体平均点は3.7点で、昨年度と同点であった。評価点が上昇した項目は、「I. 教育理念・教育目的・教育目標」「VII. 地域社会／国際交流」「VIII. 研究」であり、低下した項目は、「II. 教育課程経営」「III. 教授・学習・評価過程」「IV. 経営・管理過程」「V. 入学」であった。

看護学科：自己点検・自己評価結果



評価尺度 4：当てはまる 3：ほぼ当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

領域別評価結果

年度別平均点	R2 年度	R3 年度
評価内容（領域）		
I. 教育理念・教育目的・教育目標 (法との整合性 教育の特徴の明示)	3.9	4.0
II. 教育課程経営 (教育課程編成の考え方 教育計画・評価)	3.9	3.8
III. 教授・学習・評価過程 (授業展開過程 学習支援)	3.9	3.8
IV. 経営・管理過程 (指針 組織体制 施設設備 学生生活支援)	3.9	3.8
V. 入学 (入学選抜の考え方・妥当性)	4.0	3.5
VI. 卒業・就職・進学 (就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握)	3.3	3.3
VII. 地域社会／国際交流 (地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ)	3.2	3.5
VIII. 研究 (研究活動の保障 研究成果発表)	3.8	3.9
平 均	3.7	3.7

4. 各領域の結果と今後の課題

I. 教育理念・教育目的・教育目標（法との整合性 教育の特徴の明示）

1. 昨年度の課題であったカリキュラム改正の主旨に準じて教育目標・教育内容・科目構成を見直した。
2. 現状では、教育理念・教育目的・教育目標・3つのポリシーを学生手帳には掲載していたが、3つのポリシーはシラバスに掲載していなかったため、令和4年度から掲載する。

【課題】

- ・新カリキュラムの教育目標を達成できるよう教育活動を実践し、評価する。

II. 教育課程経営（教育課程編成の考え方 教育計画・評価）

1. 昨年度の課題であったカリキュラム改正の主旨に準じて教育目標・教育課程構築の考え方・カリキュラム構造図・教育内容・科目構成・授業科目目標を見直した。
2. 昨年度実施できなかった研究授業をオンライン上で実施することができた。本校から4名の1・2年目教員が参加した。オンライン上でリフレクションし、参加者同士でディスカッションし、得られた学びを、その後の教育実践に活かしている。

【課題】

- ・新カリキュラムで構築した教育課程について教育活動を実践し、評価する。
- ・研究授業を継続する。

III. 教授・学習・評価過程（授業展開過程 学習支援）

1. 昨年度の課題であったカリキュラム改正の主旨に準じて教育目標・教育内容・科目構成を見直した。
2. 学生による授業科目ごとの評価について、昨年度までは専任教員の担当授業のみ評価していたが、今年度から、全科目の授業評価を実施した。回収率が50%前後となることがあったため、データ収集方法を見直し、回収率が上昇した。

【課題】

- ・評価結果を分析し、教育内容・教育方法の課題を見出す。
- ・講師に対する授業評価結果のフィードバックを検討する。

IV. 経営・管理過程（指針 組織体制 施設設備 学生生活支援）

1. 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、式典や行事は規模を縮小して実施した。
2. オンラインの活用技術も進歩し、高校説明会、オープンスクール、学生祭等をオンライン上で実施した。式典の様子もホームページ上で保護者へ You tube で限定配信した。3/2 にオンラインの回線拡張工事をし、オンラインを活用できる場所が増加した。
3. 今年度から Google classroom を導入したため、学生への連絡が速やかとなり、学生生活の支援につながっている。
4. 病院全体の取り組みとして、学校のホームページを全体的に見直し中である。学生生活に関する記事をタイムリーに更新できなかった。
5. 財政基盤について、収支の具体的な内訳が明確になっておらず、教職員が本校の財政基盤の成り立ちを理解できているとは言えない。
6. 施設設備の老朽化に伴い、故障箇所が増え、修繕費用がかかる。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、オンラインを活用して学生確保に向けた広報活動に取り組む。
- ・学生生活に関するホームページの記事をタイムリーに更新する。
- ・学校経費の収支の具体的な内訳を可視化し、経営上の課題を明確にし、経費削減につなげる。

V. 入学（入学選抜の考え方・妥当性）

1. 令和4年度の推薦・社会人入試では昨年と同等の入学者を確保できた。しかし、一般入試では、応募者数が昨年より減少した。一般入試での応募者数の減少の要因分析と広報・募集活動の見直しが大きな課題である。入試判定会議では、過去の辞退率を考慮し、できるだけ80名定員を確保できるような合格者を選抜した。

【課題】

- ・高校説明会の方法を見直す。
- ・高校訪問の訪問先、時期、方法を見直す。
- ・広報活動の内容と方法を見直す。

VI. 卒業・就職・進学（就職・進学状況 国家試験合格状況卒業後の学生の状況把握）

1. 卒業生の動向把握のため、「頑張っていること」「困っていること」「後輩や教職員に対するメッセージ」「ホームカミングデーのニーズ」について、8月にアンケート調査を実施した。看護学科25名、助産学科8名の卒業生より回答があった。卒業生たちは、知識や経験不足に直面しながらも、一つ一つできることが増えていく実感も持ち、頑張っている様子であった。この結果を踏まえ、次年度はホームカミングデーに取り組みたい。

【課題】

- ・卒業生の動向把握を継続する。
- ・卒業生に対するホームカミングデーを実施する。

Ⅶ. 地域社会／国際交流（地域との連携 国際的視野 留学生受け入れ）

1. 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、式典や行事は規模を縮小して実施した。オンラインの活用技術も進歩し、高校説明会、オープンスクール、学生祭等をオンライン上で実施した。
2. ボランティア活動として、田益地区のグラウンド清掃を実施した。
3. 国際交流については、今年度、3年生に対して外部講師による国際看護について特別講義を企画し実施した。
4. 新カリキュラムでは、「災害看護と国際看護」を新規科目として設定し講義を依頼している。令和5年度から開講する。

【課題】

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策をとりながら、オンラインを活用して地域との連携を図る。
- ・国際看護についての特別講義を継続する。
- ・新設科目の「災害看護と国際看護」を実施し評価する。

Ⅷ. 研究（研究活動の保障 研究成果発表）

1. 今年度は、学会での研究発表3題、紀要への論文投稿を2題実施した。
2. 岡山看護助産学校研究倫理審査委員会で3題の研究計画書の審査を受け、承認され、現在データ収集中である。
3. 教員研究会の活動をオンラインで開催し、自施設で時間内に取り組むことができている。

【課題】

- ・今年度、倫理審査委員会で承認された研究に取り組み、次年度の学会発表もしくは、紀要に投稿する。
- ・新たな研究の取り組み